

アースキャラバン バルカンレポート

2019年3月

セルビアのペトロバッチ・ナ・ムラヴィとボスニア
のスレブレニカでのタオ指圧入門ワークショップ



ペトロバッチ・ナ・ムラヴィ

3月12日、ロブ、みわ、ちとせ、アリス、マガリが
3日間の午後のワークショップと6月のフェスティバル
のコンタクトと準備のために視察。



学校教師のイバがこの町での中心のコンタクトパーソンです。

6歳の女の子達も参加、彼女達もみんなと一緒にワークを行いました。毎日参加者が入れ替わりになっ
ていたにもかかわらずワークショップでは皆がそれぞれにポジティブな反応を示しました。

ひと月たった現在のところまだフィードバックはありませんがこのワークショップを通じて皆が相手の
話を心で聞くという機会を持たせたことに心を動かしたと共有しました。

フェスティバルの準備で新しいコンタクトもとれました。この町の皆さんは積極的に私達を受け入れて
くださいました。

バルカンでは捨て犬、猫の問題も緊急事態でありイバは動物保護のためにアソシエーションを運営して
います。この6月のフェスティバルでも動物保護のための援助もする予定です。

またチェス倶楽部とのコンタクトもとれチャトラングのブースも設ける予定です。

旅行会社、市役所、ムラドスト高校とのコンタクトもとれました。

3日間の滞在を終えて私達は人の心に触れることができ暖かい気持ちになりました。

イバからのメッセージです。

私はあなた方に会えて幸運です。そして私はあなた方が人の心、また世界中の人々をケアし未来を創造
して行く活動が大好きです。





*地元のテレビがアースキャラバンとタオ指圧のドキュメントをつくります。



スレブレニカ

ドリナ川をこえて5時間かけてボスニアに着きました。着いたのは夜も遅くなっていました。スレブレニカでコンタクトをつけてくれるイルビンがマヌエラの家で迎えてくれました。

スレブレニカは今は放棄された街。

戦争の前は7000人だった住民は現在は1000人以下。冬になると500から600人になるといいます。そしてまだたくさんの傷跡がのこっています。

イルビンのお父さんとおじさんが殺された時、彼はまだ6才でした。そして家族はイタリアに移住しました。その後彼は10年後にはじめてこの街にもどつてきました。その後26才で”希望の町”をたちあげます。

翌日のワークショップには3人が参加。イルビン、メブリダ(去年に来た時にスーパーマーケットであった女性)。彼女は女性の権利を保護し、支援する活動をしています。素晴らしい女性。そして彼女は一人の女性の学生を連れてきました。ワークショップの後、イルビンは私達のモーティベーションを感じるというくれました。

彼のモーティベーションは、人生のエッセンスを一つにすること。

そのための努力は惜しまない。そして彼は賛同者を探しています。

そしてこの訪問は、彼の希望、彼への対応をより明解にすることができました。

私はこの彼とのコミュニケーションが深い意味で異教徒をつなげることができるように願います。

イルビンはトルコ帝国によって改宗したイスラム教徒であり、もとはボゴミルであり、彼は自分達の文化を復活させたいと考えています。

このフェスティバルが行なわれるための多くの努力は皆にとって素晴らしい喜びの経験でした。

サンガとして行動を分かち合えることは素晴らしいことでした。ここまで来るにあたってのわたし達の痛みがタオ指圧によって癒されました。

